

### 支部だより

#### 関東支部

吉本 忍

昭和三十七年卒  
関東支部第二十七回総会を令和五年十一月十一日に、主婦会館エフ・プラザに於いて、来賓に母校より谷校長先生、同窓会本部より本会長と、同事務局から安川先生と山口先生、白山市東京事務所古屋所長を迎え、会員八名の参加により開催しました。議長よりコロナと高齢化の心配も有りましたが、予定していた行事もほぼ開催出来たとの報告があり、谷校長より学校の近況報告を頂き、本会長と安川先生と山口先生から創立百五十周年記念行事の進捗状況の報告を頂きまして、議事に入り「事業報告」「収支決算報告」を満場一致で承認可決し、総会は終了しました。引き続き懇親会に入り、古屋所長より白山手取川がユネスコ世界ジオパークに認定されたことのご挨拶後、乾杯の発声で懇親会に入り、会員の学生時代の話で盛り上がり、次は恒例の余興と「祝い船」の合唱で又盛り上がり、来年も頑張ろうと誓い、お開きとなりました。



#### 関西支部

北本 幸雄

昭和二十九年卒  
支部だよりの冒頭から、この様な報告で大変心苦しく申し訳ありません。これが最後の総会、そして慰労会を兼ねた集まりです。二月十六日(木)に宝塚温泉で一泊することとなりました。ゴルフ、ハイキング、歩こう会、社会見学等の行動。通過点でしかなかった、近くで遠い存在の宝塚、今回初めての行き先となりました。駅での昼食をすませ、ホテルの入館時間が早いので、市内の散策など宝塚大劇場に向かう「花の道」を色々と趣向をこらした店

舗を眺めながら、街を二分する武庫川に掛る曲がりくねった橋(宝来橋)を渡り、橋のたもとの「ホテル若水」に到着。入浴後夕食、窓から橋の上の赤いランプが白いライトに消されてゆく様をみながら、この空間を愉しく思いながら、時間をすごす事が出来ました。翌日は次の再会を楽しみにお別れしました。

#### 東海支部

孝之(旧姓加成)

令和五年度六星同窓会東海支部総会を五月二十七日、例年通りサンプレスホテル名古屋駅前店に於いて、来賓に同窓会本部より本会長、谷校長、県人会上野会長、会員八名の参加により開催しました。先ずコロナ禍で三回中止となった間、故人になった会員に黙とう後、本部長の本部長、谷正一校長、上野健県人会会長より開校百五十周年の話、学校の近況報告、県人の集いを十月一日に開催する向きの報告をいただきました。

続いて「事業報告書」「収支決算書」を審議していただき、承認いただきました。引き続き懇親会に入り、来賓三名による「ふるさと」の話でもりあがり、会員より令和六年度の総会の準備を早くして、コロナ禍で冷えきった日常生活から元気を取りもどし、笑顔で会える日を楽しみに、年長の苗代様の一本締めでお開きとなりました。



#### 金沢支部

松平 裕喜

昭和四十八年卒  
コロナウイルスに対する規制が五類に緩和された事により、六月の役員会を経て総会を開催

### 事務局だより

#### 〈本部〉

【会計監査】  
五月十日(水) 翠星高校  
【総会】  
六月二十五日(日)  
グランドホテル白山  
【支部総会】  
金沢支部総会 七月七日(金)  
ANAホリデイ・イン金沢スカイ  
東海支部総会 五月二十七日(土)  
駅前  
関東支部総会 十一月十一日(土)  
主婦会館プラザエフ

※関西支部は令和四年度をもって解散しました。

創立150周年特設サイトを開設しました!!

翠星高校 150周年 検索  
または  
松任農業高校 150周年 検索  
(本校ホームページからご覧頂けます)

150年のイチゴイチエ  
翠星高校150周年記念サイトはこちら

特設サイトはこちらを読みとって下さい▲

### 翠星トピックス

#### 〈今年度の表彰〉

いしかわエコデザイン賞  
教育・社会活動部門 銀賞  
「農業高校が挑む「食」と「農」と「環境」のエコ活動」

農業クラブ 全国大会  
意見発表会Ⅲ類 優秀賞

第十二回(令和五年)ジュニア文芸  
賞受賞作品 優秀賞  
一年 飛田 卓羽



発行所  
〒924-8544 石川県白山市三浦町500の1  
石川県立翠星高等学校内  
六星同窓会  
印刷  
能登

### 創立百五十周年をチャンスとする



六星同窓会 会長  
本 昌 康

この度の能登半島地震に関して、被災者の皆様方へ心よりお見舞い申し上げます。

「百五十周年という絶好のチャンスを生かせるかどうか。翠星高校の未来に不安はないのか?」そう先輩に聞いたとき、心にざざりと痛むものを覚えた。

三十年前の校名変更の際は我が母校「松農」が消えてしまう寂しさがあった。校舎も恩師の先生方も残っておられ親近感があったが、時が流れるにつれ母校を応援する気持ちが次第に失われていった私の

谷 正 一  
校長



### 翠星高校 この一年を振り返って

令和6年度能登半島地震で、お亡くなりになった方に対しご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に対してお見舞い申し上げます。六星同窓会員の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。時代の流れに対応し、幾多の変遷を経ながら永き歴史を紡いできた本校は、今年で創立百四十七周年となりました。これは、石川県内で最も

長い歴史を持つとともに、日本で最も伝統のある農業高校です。さらに令和八年度を迎えるにあたり、今年度は、創立百五十周年記念事業実行委員会を設立し、学校、同窓会、そして地域が、手を取り合っており、未来につながる農業高校となるような事業の実現に向けて取り組んでいるところ。学校WEBページのリニューアル、特設サイトの開設など積極的に情報発信いたしますので、同窓生の皆さんにもぜひとも関心を持っていただきたいと考えています。さて、学校生活について話を移しますと今年、新型コロナウイルス感染症の分類が、重症性の高い二類相当から五類に変更されたこともあり、全体的にコロナ禍以前の生活に戻りつつある一年であり、学校でもマスクの着用が任意となり、日々を追うごとにマスクを外して学校生活を過ごす生徒が増えていきました。昨年度まで延期や中止の恐れ

に心配していた修学旅行も無事六月に実施でき、九州の旅を思う存分満喫してきました。そして農業高校において最も忙しくなる収穫の秋、十月の各週末には、石川の農林漁業祭りはじめ、地域の様々なイベントへの参加、十月二十八日には、地元白山市のイオンモール白山において「いしかわ産産物教育フェア」が本校を主幹校として盛大に開催されました。専門教育を行う高校・特別支援学校が、一堂に会し、日頃の学習成果を県民に広くアピールする県の事業です。研究発表や作品展示・体験コーナーそして生徒たちが作った農産物・加工品などイオンモール白山をフル活用したイベントです。本校生徒・教職員は、司会進行や会場設営など運営に多くが携わり、来場者のみならず、他校から参加した方々からその働きに高い評価をいただきました。令和六年度も十月二十七日(土)同じ会場で開催が決定しています。

このように生活に欠かせない三つの産業に特化した重要な教育機関が無くなるはずはない。無くしてはならないのに人気がないところ。今一度改革のメスが必要だ。例えば、このように生活に欠かせない三つの空間提供するランドスケープの重要性はますます高まっていくことは間違いない。そう考え創立百五十周年記念事業の一環として散策・回遊性に乏しく老朽化が進む校内の庭園を整備する「100年の森」計画が進行中であることをこの場でお伝えし、ぜひとも皆さまのお力添えをお願いしたい。

の学校に集うのは高校生に限らず、小学生や中学生が「農業・食品・環境」の重要さと楽しさを学びに来る場としたりどうだろうか。さらには大人たちも自家菜園や庭をつくりたいと学びに来る。子供たちが専攻を学び、ジャムやシロップ、ケーキづくりを習う。大人たちは大豆の育て方を知り、味噌や醤油のつくり方を身につける。菜園で育てた野菜を自家製の調味料で料理する。誰もが気軽に集い、学ぶ楽しさと育て味わう喜びを知る。これほど豊かな、理想の食生活はないのではないだろうか。教える喜びも特別なものとなる。子供たちの教育と地域の皆さんの心豊かな生活に貢献でき、また憧れの場所となるような翠星高校にすべく百五十周年を再び訪れたチャンスとして大改革を起こしていただくことを期待し、最大限のエネルギーを送る。

# 100年の森 造園分野での取り組み



本校は二〇二六年に開校百五十年を迎えます。昭和五十一年に行われた百周年記念事業では、四つの様式の庭園（フランス・イタリア・イギリス・日本）が前庭として作庭されました。現在この前庭は、五十年近くの時が経過し、鬱蒼とした状態となっており、かつての造園科が造園コースとなり生徒数も減少し、管理が行き届かなくなりました。本校の正面玄関前の緩くカーブした道の両脇に列植されたタギョウシヨウも枯死が目立ち、名物景観としての尊厳が失われています。

そこで、百五十周年記念を機に約五十年前に植栽された先輩方の熱き思いを五十年先の未来へ残すため「100年の森」計画がスタートしました。タギョウシヨウを含む前庭を改修し、管理しやすく見通しのよい、そして、生徒の授業や地域の方々の憩いの場「緑あふれる愛される庭」に生まれ変わろうとしています。



掘り起こし



樹木のマーキング



根の調査



伐採後の樹木

環境科学コース造園分野 講師 高田 葵  
平成二十六年卒業 総合グリーン科学科  
定）をもとに実施しました。衰退度は、枯死寸前（Ⅴ）、著しく不良（Ⅳ）、不良（Ⅲ）、やや不良（Ⅱ）、良（Ⅰ）の五段階で評価されます。  
五十八本のタギョウシヨウを調査したところ、Ⅴが七本、Ⅳが十二本、Ⅲが十五本、Ⅱが十三本、Ⅰが四本ととても悪い結果でした。原因は、状態の悪い粘土質の栽培土壌、そして広がりすぎた樹冠同士や繁茂しすぎた日本庭園により日照が遮られるためだと考えられます。  
そこで、科目「総合実習」で生徒と共にタギョウシヨウの伐採を始めました。伐採する樹木は、日照を確保しながら景観を損なわないように選定しています。今後は伐採と並行し、前庭全ての残すべき樹木の選定を行う予定です。  
私が翠星高校生の頃に、四つの様式の庭園を「憩いの場」として利用したことはありませんでした。農学分野で学んだ私ですが、二年前から「造園分野」を担当したことで庭園の魅力を知りました。生徒が気軽に入りたくなるような、遊びたくなるような、そんな「庭に触れる体験」ができる「魅力ある100年の森」の完成を目指し、生徒と共に頑張っています。

## 六星賞受賞



総合グリーン科学科 食品科学コース 三年 平田 歩美  
日本学校農業クラブ全国大会のプロジェクト発表会等において、優秀な成績を修めた。

第七二回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会 Ⅲ類 最優秀賞・文部科学大臣賞  
タイトル「HACCP導入」応援団！  
農業高校生が食品の安全安心を考える  
第七三回日本学校農業クラブ全国大会プロジェクト発表会 Ⅱ類 優秀賞  
タイトル「命名！蔵出し革命酒米削り粉のポテンシャルの証明」  
第五十回毎日農業記録賞 優秀賞  
第六回明日の農業コンテスト 銀賞  
第七四回日本学校農業クラブ全国大会意見発表会 Ⅲ類 優秀賞  
タイトル「私の夢は「令和の水戸黄門」 食の安全を守るため世界を歩く」

## 白山市から新文化を発信！ 敬老の日には菓子贈ろう！



食品科学コース 教諭 金田 侑也  
星・和菓子部では、地元和菓子店から「若者の和菓子離れや後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子の普及を目的に活動している。白山市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日には「若者から年長者へ和菓子を贈る」新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界全体の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を企画した。

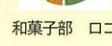
白山市地産地消課・地元和菓子店九店舗・イオンモール白山と協力し、「敬老の日キャンペーン」を開催できた。今後は全国展開を目指していきたい。また、地元和菓子店「南彩霞堂」と連携し、白山市産「おまつと牛乳」と「翠星産イチゴジャム」を合わせた、莓ミルク味の琥珀糖の協働開発を行った。文化祭やいしかわ百万石文化祭二〇二三で販売ができ、地域の方々に地元食材の魅力発信・和菓子の普及ができた。キャンペーン開催や和菓子の開発・販売など一つひとつの物事について、生徒の頑張りと、先方や地域の方々のご協力があった、成果に結びついたと考える。また、和菓子部での出会いは元和菓子店への就職に繋げることができた。今後地域との繋がりを生徒と共に持ち、学校内外へ和菓子の魅力を普及し、日本の伝統文化和菓子を守り続けていきたい。



琥珀糖協働開発



「そくさいな」お披露目会



和菓子部 ロゴ



「そくさいな」ポスター画像

## 私の思い

昭和四十七年卒 農学科 村田 興好



私は、稲作農家の長男として生を受け、その瞬間に高校は「松農」と決まっておりました。

（このような方は多いと思います）が、家には耕運機はありましたが、農作業はほとんど人力です。鋤によるあぜ塗り、近所の応援による杵回し・田植え、手による草取り、らちうち、鎌による稲刈り、天日干し等々今では考えられない作業の連続でした。学校から帰宅すると割り当てが有りました。農業は過酷であり、幼いころはサラリーマン家庭をうらやましく思ったこともありました。

しかし、夢と希望を持ち石川県立松任農業高校「農学科」に入学することとなり、砂利道を自転車三年間通い、皆勤することができました。あれから五十二年経ち、定かでない記憶かもしれませんが、三つのことが思い浮かべられます。一つ目は校歌と応援歌の地獄の指導（特訓）です。五月に開催される高校相撲金沢大会（今年が百七回目を迎えます）の為に練習でした。一年生全員が体育館に集められ、とにかく大声を出せとの応援団員の罵声が飛び交っていました。小心者の私としては苦痛の時間でしたが、そのお陰で校歌も応援歌も覚えられました。二

つ目は花き園芸の試験です。温室に栽培されている花きの名前を覚えることでした。多くの中から何が出題されるかわかりません。花きオンチの私にとつて最も憂鬱でした。しかし、今でも極楽鳥花は忘れません。試験のお陰です。三つ目は野菜園芸の実習時間で、畑への牛・豚の堆きゅう肥の運搬です。一輪車での糞まみれ作業は、重さと匂いととの戦いでした。しかし、後で思うと良い美味い農作物を作るための大事なことでした。水耕栽培もありますが、農業の基本は「土づくり」有機栽培です。因みに今でも家の畑には堆きゅう肥を散布し、家庭菜園に励んでおります。

日本は、第二次世界大戦後食料不足のため米の生産量を増やすことが大きな課題でしたが、約二十年間で収穫量が三倍となったため、私が入学した年から生産調整（減反・休耕）を強いられ、専業農家を夢見ておりましたが、農業短大卒業後は兼業農家の道を選びました。近年は勤めをリタイアしたことにより、極細な専業農家となり、農地の有難さを実感しております。

この度、卒業を迎えられた皆様、ご卒業誠におめでとうございます。進路が決まっている方もいるとは思いますが、人生これからです。母校は改編や改称で翠星高校となり、二年后に百五十周年を迎えます。この歴史と伝統ある翠星高校での学びを誇りに、先生に感謝し、友達を大切に、夢と希望を叶えてください。

## 家業に携わる役割

昭和四十七年卒 農学科 谷本 安尚

六星同窓会の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。

実家は専業林業の六代目の長男として生まれ、子供の頃から高校は「松農」と聞かされていました。農業科を昭和四十七年に卒業、家業の後継者として東京農業大学林学科に進学、卒業後は県森林組合連合会に勤務しましたが中学校、高校と飽きもせず大学でもバレーボール部に所属していました。休日、祭日は後輩である母校の練習に参加し、部員に情が移り教員を志望しました。翌年中学校に勤務することになり、女子バレーボール部の顧問となりましたが、十分な指導ができず、目標とした大会で敗退し選手に悔しい思いをさせてしまいました。この悔しさを胸に翌年、小松大谷高校（旧北陸大谷）に体育館が建つとのことで、女子バレーボール部顧問として採用され、平成元年には全国選抜大会に出場することができました。また、北京、上海にて

開催の「日中友好スポーツ・文化交流会」に招待され参加することができました。また平成三年度に開催される石川国体強



日中友好スポーツ・文化交流会

化の為、「県選抜チーム」のコーチとして京都、北海道、福岡、石川国体にも携わることができました。平成十九年には全国私立高校から将来有望な選手男女各十三名を選抜した「全国私立高等学校男女日本選抜チーム」（後に全日本で活躍した選手も参加）が結成され、女子コーチとして「日の丸」を胸に上海・杭州の大会に参加し、全勝で帰国することができました。全国私学バレーボール連盟常任理事（十五年）と教頭を務めた後退職するまで、母校である松農の先生方を始め、バレー関係者として勤務先でも多くの方々にご指導ご鞭撻頂き、感謝の気持ちで一杯です。

退職後は六代目として家業である林業に従事しようと、山林管理のため林業関係の研修等に積極的に参加しました。現在「かが森林組合」副組合長を拝命され、これから私のできる役割は、山林を通して過去を知り、将来を考えていくことが必要と考えています。次世代に残していけるよう、今一度取り組んでいきたいと思っております。

最後に母校、六星同窓会の今後益々の発展と会員の皆様の御多幸を心より祈念致します。



金城私立高等学校男女バレーボール日本代表団